2024年11月26日

2024 年度（第 32 回）日本産業衛生学会専門医資格認定試験について

専門医制度委員会
委員長 大神 明

第 32 回日本産業衛生学会専門医資格認定試験は、昨年同様従来通りの対面方式で実施されました。パナソニックリゾート大阪にて 8 月 24 日・25 日に実施しました。筆記試験と口頭試験（グループ討議、面接、課題発表）の内容で行いました。

1. 総合結果

受験者 38 名で合格者は 31 名、合格率は 81.6%でした。総合判定で不合格と判定した受験者は計 7 名です。

2. 筆記試験（筆記試験部会長 黒澤 一）

試験時間は 2 時間で，問題は例年通り，産業医として備えるべき基本的・標準的な知識を問う A 問題，産業医活動を展開する上で必要なより高度な知識を評価する B 問題，現場で必要な実際的な問題解決能力を評価する C 問題で構成しましました。問題数および配点は，A 問題は，○×形式 10 問，4 肢択一形式 10 問，穴埋め形式 20 問の計 40 問で，配点を各 1 点としました。B 問題は基本的な用語の説明問題を 2 組（B1,B2）としました。C 問題は表からの考察問題（C1）と産業医としての事例対応問題（C2）を提示しました。B，C 問題とも，それぞれどちらか一方を選んで回答するよう求めました。これらの配点は各 15 点です。

その結果，全体の平均点は 64.2 点，最高点は 80 点，最低点は 39 点で，領域別の平均得点率は，A 問題 74%，B 問題 61%，C 問題 54%でした。昨年より平均点が 4 点低く、とくに C 問題で点数が低い傾向にありました。記述の分量は十分なものの、出題意図から離れる趣旨の回答が多々みられ、点数が伸びていません。例えば、化学物質の設問では自律的管理へ移行の背景を求めるものでしたが、法改正に関する記述を行ったり、医師の働き方改革の設問では面接指導実施医師の役割について求めるものでしたが、法改正全般についての記述であったり、などです。データを読み込む C1の問題では、統計の見方や解釈の点で踏み込みが不足しており、そのため産業医活動への活用等への展開が宙に浮いてしまっているような回答が多く見受けられました。A問題に不適切問題が判明したため、該当箇所については全員を正解として採点しました。

3. 口頭試験（口頭試験部会長 北原佳代）

6～7名を 1 グループとするグループ討議および課題発表、そして個人面接により口頭試験を行いました。

グループ討議と課題発表の問題は、受験者の実務能力を包括的に評価するため、現在の社会課題も背景として産業保健現場の重要な事項をバランスよくカバーした設問を作成しました。

グループ討議では、設定場面で考えうる課題を幅広く議論し、論点を整理した上で、グループとして纏め上げること、加えて討議への参加状況やグループの一員として活動できるかどうかといった視点で評価しました。面接試験では提出された研修手帳に記載の内容を元に、受験者が担当されてきた事業場における具体的実務経験に対する質問をし、当該事業場における実践的能力や必要な専門的知識、また安全衛生全般業務に対する産業医としての関わり方等についても評価しました。課題発表では、問題文に設定された状況を踏まえ、産業医として職場の課題解決に向けた具体的な提案等に関する各受験者から発

表、設定された状況下での議論を行いました。発表の内容やプレゼン資料の分かりやすさ、設定された状況に則したプレゼンテーション、加えて参加者として各グループ員の参画状況についても評価しました。

グループ内の議論やプレゼン能力は、いずれのグループにおいても評価が高く、発表資料も見やすく簡潔にまとめられていました。しかしながら、課題把握が表層的で議論が拡がらないグループや、問題文の課題設定に対する把握が不十分で産業医として具体的な課題解決に向けた発言がない受験生が見受けられました。また、面接試験では、研修内容に対する具体的な質問に対し、専任（選任）されている事業場の特性を踏まえると、当然知っておかなければならない専門知識を習得できていない受験生や、当該事業場の産業保健的課題を十分把握できていない、事業場実態把握が不十分な受験生が見受けられました。

産業医の実務は、医学的知見や社会的な制度・ガイドラインを提示すれば解決するのではありません。基本的な知識を踏まえ、各事業場の特性を理解した上で専門職として具体的解決策を提案し共に解決していく必要があるでしょう。

4.　総評

今年は、昨年に引き続き大阪会場での試験開催となりました。今年は受験者数が例年並みの 38 名で、合格率は昨年より少し上がりました。

今年の結果についての具体的な指摘点は上記の筆記試験部会長、口頭試験部会長のコメントの通りですが、この専門医試験は、総合的な専門性を問われる試験だと思います。この産業衛生専門医は、社会医学系専門医のサブスペシャリティとして位置づけられ、公衆衛生学的、疫学的基本アプローチを駆使して、産業保健という場でのスペシャリストを認定するものです。専門医制度委員会では、産業医としての専門的知識のみではなく、産業医の実践的なプレゼンテーション能力、専門性を持った論理構築能力、説明能力、議論能力、などを評価しています。産業専攻医としての修練内容の温度差については昨年も言及したところですが、今年の受験生に関しては研修手帳の内容を見た限りではそれほど大きな差はなかったように思いました。しかしながら、専門性を持った言葉で説明する能力、あるいは問題点を把握して解釈し説明し議論できる能力、といったものを試験という場でどのように発揮するかが合否のポイントになった気がいたします。

専門医取得は、ある専門分野の 1 つの達成点でもあると同時に新たなスタートラインです。今回、認定を受けた 31 名の方々は委員会委員の評価を経て及第点に達し、その新たな出発点に立たれたことになります。今後のご活躍およびご発展に大いに期待いたします。

結びに、今回も試験委員および各試験部会委員、評価委員の方々の試験問題作成・運営・評価に多大なるご協力いただきまして無事専門医試験が実施できましたことに深謝いたします。

筆記試験問題

A1. 以下の文章が正しければ〇を、誤りであれば×を解答欄に記入しなさい。

A101. 情報通信機器の発達等に伴い、令和 3 年の労働基準局長通達によって、労働安全衛生法に基づく職場巡視は遠隔での実施が可能となった。

A102. 特定化学物質に関する特殊健康診断は、当該物質のリスクアセスメントの結果、十分にリスクが低ければ、事業者の判断で健診の実施頻度を1年以内に1回に緩和して良い。

A103. 可視光及び近赤外領域レーザーは、ほとんど角膜や水晶体に吸収される。

A104. 労働安全衛生法施行令の改正により、令和5年 4 月1日から、職長等の安全衛生教育の対象業種が拡大された。

A105. 防護係数は呼吸用保護具の防護性能を表す指標であり、環境中に存在する有害物質の保護具への漏れ率の逆数で示される。

A106. 労働安全衛生規則第 43条の雇入れ時の健康診断では、オージオメーターによる6,000Hz の聴力検査は省略できない。

A107. 事業者には、一般健康診断の再検査の実施義務はないが、特殊健康診断の再検査の実施義務がある。

A108. 暑熱、寒冷又は多湿の屋内作業場においては、2か月以内ごとに1 回、定期に、気温、湿度及びふく射熱を測定しなければならない。

A109. 派遣社員におけるストレスチェックは、派遣元が行う。

A110. 放射線障害において、永久不妊にはしきい線量があるが、白内障にはしきい線量はない。

A2. 選択肢の中から正解を1つ選び、その数字を解答欄に記入しなさい。

A201. 個人情報の保護に関する法律で要配慮個人情報とはされていないのはどれか。
1. 人間ドック結果のうち法定項目
2. ストレスチェック未受診情報
3. 一般健康診断時に自己申告された既往歴
4. 長時間労働における医師の面接指導内容

A202. 有機溶剤中毒予防規則に定められた作業主任者の職務として誤っているのはどれか。
1. 作業の方法を決定し、労働者を指揮すること。
2. 局所排気装置を 1 か月を超えない期間ごとに点検すること。
3. 保護具の選定を適切に行うこと。
4. タンク内部作業では、一定の労働災害防止措置が講じられていることを確認すること。

A203. 女性労働者に関する記述で誤りはどれか。
1. 妊産婦が請求した場合は、深夜業をさせることはできない。
2. 母性健康管理指導事項連絡カードは労働基準法に基づく施策である。
3. 第 3 管理区分の屋内作業場には女性に作業させてはいけない。
4. 著しく振動を与える作業に産婦（産後 1 年以内）をつけてはいけない。

A204. 常時 500 人を超える労働者を使用する事業場で、鉛や水銀などの粉じんや蒸気、ガスが発散する場所における有害な業務に常時 30 人以上の労働者を従事させる場合、衛生管理者のうち一人は選任が必要となるのはどれか。
1. 労働衛生コンサルタント
2. 労働安全コンサルタント
3. 衛生工学衛生管理者
4. 化学物質管理者

A205. 労働安全衛生法上、労働者が負う義務でない事項はどれか。
1. 一般健康診断の受診
2. 安全衛生改善計画の遵守
3. 保護具の使用
4. リスクアセスメントの実施

A206. 健康診断の実施や項目に関する定めがない省令はどれか。
1.労働安全衛生規則
2.粉じん障害防止規則
3.有機溶剤中毒予防規則
4.電離放射線障害防止規則

A207. 特殊健康診断の実施頻度の緩和を検討する対象となりうる労働者はどれか。
1.有機溶剤を取り扱う屋外作業に常時従事する労働者
2. 特別管理物質を取り扱う屋内作業に常時従事する労働者
3.鉛業務を行う屋内作業に常時従事する労働者
4.所轄労働基準監督署長の認定を受けた作業に常時従事する労働者

A208. 海外派遣労働者の健康診断について正しいものはどれか。
1.労働者を 6 か月以上派遣する場合であっても、出張の場合は健康診断は不要である。
2.海外に6か月以上派遣した労働者を国内での業務につかせるときは、その業務が一時的であっても、健康診断は必要である。
3.海外派遣者の健康診断を行う 3 か月前に特定業務従事者の健康診断を実施した場合、その健康診断の項目に相当する項目は省略してよい。
4.派遣前に B 型肝炎ウイルス抗体検査を実施した場合は、派遣後も実施しなければならない。

A209. ストレスチェックについて誤っているのはどれか。
1. 労働安全衛生法に規定されている。
2. 精神疾患の早期発見を主な目的とする。
3. 集団ごとの集計・分析は努力義務である。
4. 高ストレス者の選定基準は事業所によって異なる。

A210. 鉛・有機溶剤などの労働衛生検査の精度管理を行う団体はどれか。
1.全国労働衛生団体連合会
2.労働安全衛生総合研究所
3.中央労働災害防止協会
4.日本作業環境測定協会

A3. A301 から A320 の括弧に入る適切な語句を解答欄に記入しなさい。

A301. 事業者はリスクアセスメントの結果に基づく措置として、労働者に保護具を使用させるときは、（　　）を選任しなければならない。

A302. 事業者は、産業医を解任したときは、遅滞なくその旨・理由を（　　）に報告しなければならない。

A303. 職場における腰痛予防対策指針では、重量物は男性では体重の 40%以下であり、女性の場合は男性が扱うことのできる重量の（　　）%以下とされている。

A304. 減圧症では、加圧中に体内に過剰溶解した（　　）が、不適切な減圧によって気泡化することで症状が現れる。

A305. 一酸化炭素は特定化学物質の第（　　）類物質である。

A306. 常時使用する労働者の数が 3001 人の場合、選任すべき衛生管理者数は（　　）人以上である。

A307. （不適切問題のため削除）

A308. 放射線を放出する能力（放射能）をあらわす単位は、（　　）である。

A309. 振動障害の一つである白指発作は（　　）現象と呼ばれる。

A310. 酸素欠乏を予防するためには、作業開始前に空気中の酸素濃度を測定し、作業場所の酸素濃度を（　　）%以上に保つように換気する。

A311. 第 14 次労働災害防止計画では、小規模事業場（労働者 50 人未満）におけるストレスチェック実施の割合を 2027 年までに（　　）%以上となることを目指す。

A312. （　　）業や造船業では、元請業者や下請業者の労働者が同一の場所で作業を行うことによって生ずる労働災害を防止するため、統括安全衛生責任者を選任することが義務付けられている。

A313. 事業者には健康診断結果についての医師等の意見に基づいて、就業区分に応じた就業上の措置を決定する場合には、あらかじめ（　　）の意見を聞くことに努めることが求められている。

A314. 地方じん肺診査医は、管理区分（　　）以上のじん肺の所見を有する者の診査を行う。

A315. 産業医の権限には、事業者又は（　　）に対して意見を述べることが含まれている。

A316. 労働安全衛生法上、面接指導の義務があるのは超過した1か月の時間外労働と休日労働が月（　　）時間を超え、かつ疲労蓄積を認める者が申し出を行った場合である。

A317. 慢性減圧症として無菌性（　　）が重要で、四肢大関節部が好発部位であり、骨置換術を要する場合もある。

A318. 騒音の発生する職場で８時間の許容騒音レベルは（　　）dB(A)である。

A319. 労働安全衛生法第13条第3項には、産業医はその専門的立場から独立性・中立性をもって労働者の健康管理等を行うのに必要な医学に関する知識に基づいて、（　　）にその職務を行うことが規定されている。

A320. （　　）とは、視野内で過度に輝度が高い点や面が見えることによって起きる不快感や見にくさのことをいう。

B1. B11 か B12 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

B11．化学物質管理が、個別具体的規制から自律的管理へ移行が必要であった背景について、200字以上300字以内で述べなさい。

B12．情報通信機器を用いて労働安全衛生法で規定されている医師による面接指導を行う場合に留意すべき点について 200 字以上 300 字以内で述べなさい。

B2. B21 か B22 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

B21．交代勤務を行う労働者の一般健康診断結果において、健康診断の血圧値が III 度高血圧症の基準値に該当した場合に一律に「夜勤禁止」と医師が意見を述べることについて、その問題点を 200 字以上 300 字以内で述べなさい。

B22．令和6年 4 月から施行された改正医療法により、医師の働き方改革に関連して定められた面接指導実施医師の役割について 200 字以上 300 字以内で述べなさい。

C1. C11 か C12 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

C11. 表は時間外労働とメンタルヘルス上の問題による長期病気欠勤発生との関連を調査した論文のものである。この表から得られる結果について 300 字以内で述べなさい。

出典：Yosuke Inoue et al. Overtime Work and the Incidence of Long-term Sickness Absence Due to Mental Disorders: A Prospective Cohort Study. J Epidemiol. 2022 Jun 5;32(6):283-289.

Table 2. Adjusted hazard ratios and 95% confidence intervals for medically certified long-term sickness absence due to mental health problems among the Japanese working-age population (2012–2017)

	Overwork hours/month			
	<45	45–79	80–99	≥100
Number of subjects	35,109	10,372	1,346	595
Person-time	155,660	47,006	6,081	2,697
Number of events	417	86	17	16
Crude model HR	1.00 (ref.)	0.68 (0.59, 0.80)	1.04 (0.89, 1.22)	2.22 (1.20, 4.11)
Model 1 HR	1.00 (ref.)	0.63 (0.56, 0.71)	0.98 (0.84, 1.13)	2.11 (1.12, 3.98)
Model 2 HR	1.00 (ref.)	0.63 (0.55, 0.72)	0.99 (0.86, 1.14)	2.11 (1.10, 4.07)

HR: hazard ratio.

Model 1 was adjusted for age (in years) and sex, while model 2 was further adjusted for possible mediators linking working hours and long-term sickness absence due to mental health problems: current smoking (yes/no), body mass index categories (<18.5; 18.5–24.9; 25.0–29.9; ≥30 kg/m^2), baseline hypertension, diabetes, and dyslipidemia. We treated worksites as clusters in the analysis.

C12. 嘱託産業医であるあなたは、嘱託先の企業で、昨年度に新型コロナウイルスに罹患した従業員数をまとめ、カイ 2 乗検定で次の結果を得た。今年度の社内の感染予防対策を考えるにあたり、結果を保健師と共有することにした。統計学的な意味と今年度に同様の集計を行う際に、どのような情報を収集するとよいかを 300 字以内で述べなさい。

A 社の 2023 年度の新型コロナウイルス感染症罹患者と行動様式

	罹患した	罹患しなかった	計
手洗いとうがいを行った	72	163	235
手洗いを行った	52	98	150
計	124	261	385

カイ 2 乗検定を行い、p=0.409 を得た

C2. C21 か C22 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

C21. 重量物輸送機器における電気の配線取り付け作業に従事する予定の者が、色覚異常であることが判明した。配電盤における緑と赤の配線の区別がつきにくいと言う診断書を本人が持参してきたため、現場上司から産業医に相談を受けた。この労働者に関する産業医としての対応を 300 字以内で述べなさい。

C22. 労働者 A が肺がん検診を受けたところ、肋骨転移を伴う進行がんが見つかった。主治医からは今後の治療計画として、数回の通院による放射線治療の後、入院を伴う抗がん剤治療を行うことが提案された。労働者 A は、現在、海外プラント建設の大型プロジェクトの管理を任されており、1 年後に現地に赴任する予定となっている。本人から当該業務の継続について迷っていて、どうしたらよいか相談を受けた。産業医が行うべき内容を 300 字以内で述べなさい。

口頭試験問題（課題発表）

課題発表①

あなたは今年度から従業員 300 名の食品製造会社の嘱託産業医に選任され、毎月 2 回出務しています。
衛生管理者から「夜勤に従事する 30 代の男性労働者が救急搬送された。」との連絡がありました。主治医からは「到着時、SpO_2 低下（89%）、身体所見等からアナフィラキシー反応を疑い、アドレナリン 0.3mg 筋注、高濃度酸素投与などで回復し、翌日退院した。」と報告を受けました。後日、一般的なアレルゲンへの特異的 IgE は高値を認めず、その他のアレルゲンへの感作が示唆され、エピペンを処方したとの報告も届きました。
職場巡視をしたところ、当該労働者は果物から中間製品を製造する工程で酵素剤の投入を担当しており、その SDS には「呼吸器感作性（区分 1）」と記載されていました。酵素剤の投入時、局所排気装置が作動しますが、粉じんを捕捉しきれず、保護メガネや保護マスクの着用は各自に任されています。
上司である課長から「このまま夜勤を継続させてよいでしょうか？」と相談があり、復職に先立ち本人と面談すると、「これまでも当該作業で息苦しさを感じることはあったが、今回のようなことは初めて。一回だけのことだから慣れている酵素剤投入を含む夜勤に戻りたい。」と訴えました。
製造部長、課長に対して、10 分間で今後の対応について提案してください。

課題発表②

あなたは従業員数 2,500 名（平均年齢 42 歳）の機械製造事業所の専属産業医です。
専属産業医 1 名と常勤保健師 3 名から構成される産業保健チームで、一般定期健康診断の事後措置として保健指導を行なっています。しかし毎年同じ従業員が保健指導の対象になることが多く、保健師から「保健指導が生活習慣病の改善につながっていないのではないか。」と懸念する意見が出ています。
産業保健チーム会議で、今後の方針と対策について 10 分間で説明して下さい。

課題発表③

あなたは従業員数 1,000 名の情報通信業の専属産業医で、健康管理室長をしています。
スタッフミーティングで、事務スタッフから「IT 先進企業として、定期健診結果をもとに従業員が自分の健康情報を把握することができ、従業員の健康管理を一元的にサポートできる AI 健康アプリを導入すべき」との意見が出されました。
一方、別のスタッフからは「今でも健診管理システム、休復職者システム、予防接種管理システムなど複数のシステムが並立して大変なのに、それを一元化して、さらに社員自身が管理できるようにするのは無理だと思う」との意見も出ました。
次回のスタッフミーティングで室長として、健康管理を進める上での情報システムの対応方針について 10 分間で話して下さい。

課題発表④

あなたは、従業員 300 名の大手通販会社国内コールセンターの嘱託産業医です。
Web ショップで商品を購入した消費者からの苦情が多々寄せられる中で、複数の担当者が怒鳴られる、暴言を浴びせられるなどハラスメント被害が多発しています。
これまでもカスタマー対応においてはチームを編成し、激高する顧客や暴言を吐く顧客の回線は直ぐに上職者に繋ぐ等の社内対応をしてきました。しかし、特に若年女性担当者でメンタル不調を来すケースが複数発生したことから、人事担当者から産業医に、更なる対応の強化について、次回の安全衛生委員会で方策を提案してほしいと要望がありました。
あなたは、①組織対応について、②カスタマーハラスメント被害者対応について、③産業医として自身の関わりについて、どの様な提案をしますか。１０分程度でまとめて報告してください。

課題発表⑤

あなたは従業員 900 名の小売業を主体とする企業の嘱託産業医です。
この企業では、社員が不特定多数の顧客、特に海外からの顧客と接することが多いのが特徴です。最近、海外からの顧客から感染したと考えられる麻疹に罹患した社員が発生しました。訪日外国人旅行者が増加している中、小売業における感染症対策は重要課題の一つとなっています。今回、総務部長から、部長職と各店舗の店長の出席する会議において「今後、当事業所が行うべき小売業における麻疹感染症対策」について提案してほしいと依頼がありました。具体的な取り組みについて 10 分間で説明して下さい。

課題発表⑥

あなたは、労働者数 200 名の製造業の嘱託産業医です。
部品の組み立て工程では、ノルマルヘキサンを主成分とする接着剤を使用しています。
衛生管理者より、ノルマルヘキサン取り扱い労働者 20 名の特殊健康診断結果の就業区分判定を依頼されました。20 名のうち 16 名の健診結果は異常がありませんでした。所見があった 4 名について、1 名は他覚所見「皮膚炎」と自覚症状「皮膚または粘膜の異常」が認められ、3 名は尿中代謝物 2,5-ヘキサンジオンの値が 3mg/l（分布 2）でした。
組み立て工程の作業環境測定結果は、長年、管理区分 1 が持続しており、特殊健康診断において有所見者が認めらたことはありませんでした。この 4 名の「作業条件の簡易な調査」結果を確認すると、4 名全員が、作業工程の変更「有り」、取扱量「増加した」、局所排気装置の使用「時々使用」、保護具の使用「時々使用」、と回答していました。
衛生管理者によると、量産体制で高負荷であったこと、作業主任者が交代したこと、4 名は他工程から応援目的での配置換え者であったこと、がいつもと異なる点だと説明がありました。
衛生管理者より、今後の対応の進め方に関する産業医から助言を頂きたいと依頼を受けました。今回の事象に対する課題を列挙し、どのようなステップで改善に着手するとよいか、産業医からの意見を安全衛生委員会において 10 分程度で説明してください。

課題発表⑦

あなたは、職員数約 120 名の県立高等学校の嘱託産業医に選任されることになりました。
前任者から、「産業医の出務頻度は月に 1 回です。出勤日に併せて衛生委員会を開催していますが、あまり目新しい話題はありません。病気休暇を取得している教員もいるようですが、特に産業医面談等の要請はありません。」とのことで引き継ぎました。
今回、人事異動で新たな校長が着任したため、教頭と衛生管理者である事務長から、職員の健康状態や職場の状況について校長とともに説明を受けました。

【職員の健康状態や職場の状況】

- メンタル疾患による 1 ヶ月以上の長期病休者が 2 名
- 昨年の人間ドックで発見された大腸がんを治療し、近日中に復帰予定の職員が 1 名
- 月 45 時間以上の時間外勤務者は年間のべ 60 名
- ストレスチェックの集団分析結果の総合健康リスクは 112

校長から、「教員の働き方改革も進めていく中で、この学校の健康管理上の課題と対策について意見を聞かせてもらいたい。また教員の健康管理を適切に進める上で基本的な考え方（産業保健の基本的考え方）について教えていただきたい。」と依頼されました。
衛生委員会において 10 分程度で説明して下さい。

口頭試験問題（グループ討議）

グループ討議①

あなたは従業員数約 500 名の不動産業の嘱託産業医です。会社との直接契約で、産業医が月 1 日、保健師 1 名が週 1 日勤務しています。産業保健職の勤務日は、健診判定、有所見者の保健指導、休復職面談、長時間労働面談等で概ね手一杯です。
この会社では従業員の約 3 割は女性ですが、女性管理職の割合は数パーセントです。労働組合の働きかけで、産婦人科医を招いて「女性の健康セミナー」が開催されたことが一度ありましたが、それ以降は特に何も行われていません。
ある日、労働組合副委員長の女性が保健師のもとに相談に訪れました。
「女性従業員は生理中で体調が悪くても外回りに行っている状況です。先週も外回り中に体調が悪くて動けなくなる社員がいました。生理休暇の取得は、ほぼゼロです。管理職がほとんど男性であり、『生理休暇は女性だけ休めてずるい、必要ない』と思っているようです。このような状況では、女性従業員が働きにくいので、健康施策を進めて頂けないでしょうか。」とのことです。
産業医の勤務日に、保健師からこの相談について報告を受けました。
今後、この課題にどのように対応するか検討して下さい。

グループ討議②

あなたは、従業員約 500 名の IT 関連企業 A 社の嘱託産業医として、月 2 回出務しています。A 社では、在宅勤務制度を導入しており、会議も殆どweb 会議形式で行っています。また、研究開発部門の社員には、裁量労働制が適用されています。

研究開発部の係長であり先天性心疾患を持つ 30 代男性の X 氏は、感染症罹患を契機に原疾患が悪化し心不全となり、補助人工心臓埋め込み手術を受けました。約２ヵ月間の入院後、復職審査会を経て、在宅勤務を行っていました。しかし、2 週間ほど自宅で過ごした後に心不全が再燃傾向となり、再入院。入院後数日でベッド上での PC 作業は支障なくできたため、主治医の許可も得て、入院した状況で業務を再開していました。再入院の事実は同僚と直属の上司のみが把握していましたが、入院している状況で業務を行っている状況を心配した課長が本人に「療養に専念したほうが良いのではないか？」と話したところ、「元々裁量労働制が適用されているので、働く場所は何処でも良いはずだ。自分は病院で生活しているが、メールやチャット、web でやるべき業務は、ほぼ出来ており職責は果たしていると思う。休職にするのでは無く、在宅勤務の扱いとしてほしい。」と反論されたとのことです。判断に困った課長と人事担当者から、産業医であるあなたに、どのように対応するべきか相談がありました。

検討・考慮すべきポイントを整理し、どのような対応をするか検討をしてください。

グループ討議③

あなたは、労働者数 150 名の製造業の嘱託産業医です。合成皮革の製造工程において N,N-ジメチルホルムアミド（以下、「DMF」）が使用されています。皮革製品は自動化された工程で作られています。作業者は、恒温槽から合成皮革製品を取り出す際に DMF を含有したガスに曝露され、かつ恒温槽周辺は暑熱職場です。製品取り出し作業時には、長袖シャツ、防毒マスク、保護メガネ・保護手袋・エプロンを着用するよう指導しています。

X 年 4 月に採用し、この工程に配置された労働者 A（男性、34 歳）の X 年 8 月に実施した特殊健康診断の結果について、「健診機関から再検査指示があった」と衛生管理者より報告を受けました。特殊健康診断の結果は、身長 166cm、体重 84kg、血圧 156/96mmHg、尿中 N-メチルホルムアミド 30 mg/l（分布 2）、AST135 IU/L（基準値 8～38 IU/L）、ALT208 IU/L（基準値 8～44 IU/L）、γ-GTP230 IU/L（基準値 80 IU/L 以下）、自他覚症状に特記事項なし、でした。X 年 4 月に実施した雇入れ時健康診断結果を確認すると、現病歴、既往歴に特記事項はなく、身長 166cm、体重 78kg、飲酒習慣は毎日缶ビール 500ml を 3 本、焼酎の水割り 2 杯、血圧 142/88mmHg、AST 36 IU/L、ALT 50 IU/L、γ-GTP76 IU/L でした。

労働者 A に対する事後措置および衛生管理者に対する助言・指導を、どのように行うかについて議論して下さい。

・添付参考資料：厚生労働省「職場のあんぜんサイト」安全データシート